

観光社会資本の事例

テーマ	自然と歴史文化のかおる大河津分水
【施設の状況写真】	
	
<p>大正 11 年に通水し近代土木施設が残る大河津分水。登録有形文化財として登録された旧洗堰と完成から 70 年以上経過した可動堰及び平成 13 年度に完成した新洗堰。</p>	<p>大河津分水の歴史とそれに関わった技術者、越後平野の発展の様子、大河津分水の施設の働きなどが学べる大河津資料館。</p>
【施設の利用写真】	
	
<p>大河津分水の公園内で行われる燕市(旧分水地区)の桜まつり。約 15 万人が集うメインイベントのおいらん道中。</p>	<p>大河津分水の工事で使われた用具が展示されている大河津資料館。歴史の勉強で小中学生の利用も多い。</p>
【観光資源としての利用状況】	
<p>大河津分水は、燕市はもとより、県都新潟市を含め信濃川下流域の市町村にも利水、治水の効果をもたらしています。観光面でも佐渡弥彦米山国定公園に指定されており、春には燕市(旧分水地区)の桜まつりがあり、メインイベントの「おいらん道中」が開催される他、水鳥の観察や大河津資料館見学、家族での分水公園の利用など、燕市と協力しながら町の観光資源として、利用を進めています。</p>	

テーマ	自然と歴史文化のかおる大河津分水
【社会資本の基礎データ】 名称 大河津分水 所在地 新潟県燕市大川津地先 事業名 河川改修事業(特定構造物改築事業) 事業主体 国土交通省北陸地方整備局信濃川河川事務所 事業期間 (大河津洗堰改築)平成4年～平成13年・(大河津可動堰改築)平成15年～	
【社会資本の役割・効果】 ・役割・効果 大河津分水は、通常時及び上流のみ洪水のときには、洗堰から下流へ生活用水・かんがい用水・工業用水などに必要とされる水量(毎秒270立方メートルまで)を流し、それ以上の水は可動堰から分水路をとり、日本海へ流します。信濃川の下流が洪水の時は、洗堰を閉じ全量を分水路から日本海に流します。このように、洪水が下流へ流れるのを防ぎ、越後平野を水害から守るとともに、必要な水を信濃川下流へ流しています。大河津分水は、洪水のときだけでなく、年中休みなく働き続けています。 大水害に合うことがほとんどなくなった越後平野は、腰までつかって農作業をしていた湛水田は、大河津分水によって水位が下がり、更に土地改良が進んで現在のような美田に生まれ変わり、めざましい発展を遂げました。	
【位置図】 	
【関連ホームページ】 大河津資料館 HP http://ohkouzu.jp 旧分水町 HP http://www.bunsui.or.jp/	